コロナ渦の中、チーム存続をする為に進化を遂げた平塚学園マネージャーの活動

県内でベスト３に入る意識の高さと行動力

菅原仁奈MG

2023年平塚学園の薄井監督からこんな言葉を聞いた。「うちのマネージャーは県内でベスト３に入るので、ぜひ神奈川県の広報活動で使ってください。特にあの背の高い子が出来過ぎてコワイんです。」広報活動において高齢化と人材不足が課題だったので心強く思った。おかげさまで試合のビデオ撮影などご協力頂き感謝に堪えません。

ラグビー部の練習を見て入学を決めた動機とは

2021年4月に平塚学園ラグビー部のマネージャーとなった菅原さんのエピソードを紹介する。彼女は中学時代ソフトボール部に所属し平塚学園は第一志望ではなかった。しかし学校ガイダンスでふとラグビー部の練習風景が視界に飛び込んできた。そこで彼女は衝撃を受ける。「なんだか妙な形をしたボールに選手が喰らいついている。周りのマネージャーのサポートも素晴らしい。」ラグビー部の規律正しい雰囲気に一瞬にして魅了されてしまったのだ。帰宅後、両親に平塚学園に行きたい旨を伝えて初めは反対されたが彼女の熱意が上回り入学することとなる。

新入部員勧誘が困難の中で前代未聞の出来事が起きる

入学早々薄井監督にラグビー部への入部届を提出した彼女には思いがけないことが待っていた。そうコロナの真っただ中、上級生が新人勧誘ができない事態が待っていたのだ。薄井監督から「部員が集まらなかったらマネージャーが必要なくなってしまう」と伝えられた。そこで彼女は覚醒する。「マネージャーが出来なければ…平塚学園に入った意味がない。」のちにチーム内からコミュニケーションモンスターと異名をもつほどの能力が開花した瞬間だった。仮入部の同級生と共に必死に部員を誘い13名が仲間となった。１年生のラグビー未経験の女子生徒がこんなに多くの男子部員を集めたということを私は聞いたことがない。彼女は偉業を達成したのだ。無事チームは定員を確保し活動、彼女もマネージャーとして籍を置く事となる。

マネージャーもレフリーをすることを決めた理由。

2024年春、秋葉台公園競技場で高校の練習会があった。そこでは４コートに分かれてタッチフットが行われていた。平塚学園のマネージャーがレフリーとなってボールを蹴ってキックオフ。試合を仕切っている。とても新鮮な光景だった。このことを彼女に聞いてみた。

選手に試合に出て欲しい！他校と一味違うマネージャー

第３７期平塚学園ラグビー部(前列左端が菅原仁奈MG)

「タッチフットのレフリーを始めたきっかけは、私の代（37期）が新チームになった頃チームがギリギリ成り立つ人数しかいませんでした。
選手16人、マネージャー3人、スタッフ1人の計20人です。選手16人はいるものの、怪我人も多く練習試合も組んでもらえませんでした。そこで、チームのために何が出来るか考えたところマネージャーがレフリーの勉強をしてタッチフットをすれば選手がその分1人多く試合に出れると思いました。そこから、薄井監督に教えてもらいながらタッチフットのレフリーを勉強しました。新入生が入学するタイミングは丁度、関東大会予選なんですよね。新入部員も確保したいし、試合にも勝ちたい。人数の少ない私たちには、とてもプレッシャーでした。なんとか、同時進行するため薄井監督は現役部員の練習を見て、私が新入部員のタッチフットを受け持つということもありました。私自身、他校マネージャーとは一味違うマネージャーになりたい。選手達にとって、良い環境づくりをしたい。後輩マネージャーにもそうなってほしいという思いがあります。」と彼女は語った。

夢は先生、ラグビーの指導者になること

2024年３月に卒業した。とても充実した日々を過ごしたことだろう。たまたま学校ガイダンスで訪れた日に、たまたま練習をしていたラグビー部。その練習風景を見て入部を決めた。言葉では説明できない…直感を信じたのだ。現在、大学で先生を目指して勉学に励み、時間が空いているときには母校のラグビー部をサポートする。新しいタイプの神奈川らぐびー人に期待大である。

試合中SAとしても活動

（取材：鈴木邦佳）

平塚学園
紹介動画